vinetur

スペインワイン輸出、9月までの金額が6%減

9月の輸出額は0.7%増。瓶詰めの品種ワインとバッグ・イン・ボックスは他カテゴリーより底堅さを示した

2026年11月20日（金）



スペインワインの輸出は9月まで低迷が続き、海外向け販売額は前年同期比6%減、数量は12.8%減となった。一方、9月の輸出額には小幅な改善が見られた。

La Semana Vitivinícolaが金曜日に報じたところによると、スペインは1月から9月にかけて、20億770万ユーロ相当のワインを輸出し、輸出量は12億6,770万リットルだった。同誌によれば、海外市場での需要低迷が続くなか、9月の輸出額は前年同月比で0.7%増加した。

金額の減少幅が数量の減少幅を下回ったことは、平均輸出価格の上昇、またはより高価格帯の製品への構成変化を示唆している。それでも、2026年の9カ月を経たスペインワインの国際市場は、全

体として減速していることがうかがえる。

こうした低調な流れのなかでも、市場全体より持ちこたえたセグメントがある。La Semana Vitivinícolaによると、瓶詰めの品種ワインとバッグ・イン・ボックスは、他のカテゴリーよりも落ち込みを抑えた形態の一つだった。同報道は貿易全体の傾向を変えるものではないが、利便性や形態の差別化、より安定した小売需要に結びつく市場の一部が、相対的に底堅さを示している可能性を示した。

これは単一の輸出品目にとどまらない意味を持つ。ワイナリーをはじめとする飲料輸出業者にとって、海外需要の低迷は価格設定や在庫計画への圧力を強め、市場や製品形態の幅を広げる必要性を高める。輸出の減速が続けば、瓶詰めの品種ワインとバッグ・イン・ボックスの減少幅が小さいことが、生産者による在庫配分や販促予算にも影響する可能性がある。

La Gaceta del Vinoが11月19日に報じた別の市場データも、海外需要のばらつきを浮き彫りにした。アジア有数のワイン輸入国である韓国では、スペインワイン業界団体の数値によると、6月までの1年間のワイン輸入量は前年比1.33％増の約5,620万リットルとなった一方、輸入額は9％超減の3億7,550万ユーロだった。平均輸入価格は1リットル当たり6.70ユーロだった。

韓国の輸入構成では瓶詰めワインが主流で、全体の73.5％を占めた。スパークリングワインは11.5％、バルクワインは10.5％、バッグ・イン・ボックスは4.5％だった。この内訳は、輸出実績において形態が引き続き重要であることを示している。消費者や輸入業者がカテゴリーそのものから離れるのではなく、価格帯を移行している市場では、特にその重要性が高い。

韓国へのワイン供給量ではスペインが引き続き首位で、販売量は1,050万リットル、金額は2,380万ユーロだった。チリの1,030万リットル、フランスの870万リットルを上回った。一方、La Gaceta del Vinoが引用した同じデータによると、韓国の2026年上半期のワイン輸入は、数量が0.8％減の2,760万リットル、金額が4.7％減の1億8,410万ユーロとなり、平均価格は1リットル当たり6.66ユーロだった。

韓国の数値からは、カテゴリーごとに実績が大きく異なることも分かる。同国のスパークリングワイン輸入は数量で1.9％、金額で9.5％減少した。瓶詰めワインは数量が横ばいだったものの、金額は約10％減。バッグ・イン・ボックスは数量で22％、金額で約27％減少した。一方、バルクワインは数量が57.5％、金額が12.7％増加した。

韓国のバルクワインとバッグ・イン・ボックスの輸入では、スペインが数量ベースで首位だった。バルクワインは230万リットル、180万ユーロ相当を販売し、オーストラリアとニュージーランドを上回った。バッグ・イン・ボックスは120万リットル、130万ユーロ相当で、オーストラリアと米国を上回った。これらの数値は、世界市場が軟調ななかでも、低価格帯や柔軟な形態の製品には買い手が見つかっていることを示唆する。ただし、必ずしも金額の上昇を伴うわけではない。